2018年2月号（2018年2月1日発行）　　発行：神奈川県学童保育連絡協議会

神奈川県の学童保育

県は国の補助金を満額予算化、市町村の申請に100%応える
～　県次世代育成課との懇談を開催　～

平成29年12月26日（火）に、神奈川県で学童保育（放課後児童クラブ）を所管している「県民局次世代育成部次世代育成課」との懇談会を行いました。

年末のあわただしい時期にもかかわらず、課長、副課長、グループリーダー、副主幹の4人の方に県連協事務所までお越しいただき、およそ1時間半にわたり、意見交換することができました。

始めに、県連協会長より「新制度となってから、より良いものとなるよう進めていただいている。これからもぜひお願いしたい」と挨拶をし、課長からも「今、連協と良い関係を築いている。これからも良い関係を維持していきたい。」とご挨拶をいただきました。

次に、次年度に向けた要望について説明をしました。（以下、抜粋）

要望項目2　「「新制度」の趣旨に則り、市町村が制度を十分活用した財政措置をするよう県として支援を」について、県が予算化しても市町村から協議が上がってこないと聞いている。市町村が予算を組むよう支援してほしい。

要望項目5　「経済的困難から学童保育を利用できない子どもが通えるよう」国が制度を作るまで広域自治体として、市町村の財政支援を担ってほしい。

要望項目7　　大地震や大雨など災害が続いている。何かあってからでは遅い。災害に向けた対策をお願いしたい。

要望項目9の⑥　基準省令の「従うべき基準」に対し、基準の引き下げをする動きがある。全国知事会からも意見が出されている。引き下げないよう国に要望してほしい。

懇談会には各地域からも参加があり、現状や要望などを伝える機会となりました。

神奈川県では47都道府県の中で最も学童保育の利用率が低く、特に横浜市や横須賀市など、高額な保育料（学童保育利用料）により学童保育が利用できず、放課後を守られていない子どもの多さが訴えられました。

また、クラブの裏手が県の土砂災害警戒区域に指定されているが、移転先が見つからず、子どもたちの安全が守れていない現状や、定員オーバーのため移転を進めているが、学童保育施設の基準が明確にないために、後から避難経路の問題が出てくるなどの課題が出されました。さらに、国の補助金の使用例等事例を市町村に周知してもらえると、市町村としても分かりやすくて良いのでは、という意見も出されました。

県からは、県は満額予算化できない時代もあったが、近年では100%予算化していること。厚労省や内閣府など国に対し、県と市町村の総意という形で個別に要望を伝えていること。学童保育の担当課として役割等を理解していきたいと思っていること。また、市町村と事業者が一緒に来庁してもらえば、個別対応で相談に乗ることができる。など、力強い回答を得ることができました。

県連協としては、今後も引き続き県担当課との懇談を重ね、県内の学童保育がより良いものとなるよう働きかけてまいります。

第41回神奈川県学童保育研究集会
～午後は14の分科会！～

前号でお知らせした、3月4日（日）に横浜市開港記念会館で開催する「第41回（通称）かな研」ですが、リーフレットが出来上がりました。

県連協ＨＰ（http://kanaken.onushi.com/）からリーフレットをダウンロードしていただけます。

右下のQRコードから県連協ＨＰに移動できます。

申込方法については、このニュースの3面「案内」をご参照ください。

なお。定員のある分科会もありますので、お申込はお早めに！

【↑県連協HP】

2018 年新春会長会を開催

新しい年を迎え、１月８日(日)に横浜社会福祉センターにて新春会長会を開催しました。
9 地域連協から会長はじめ 21 名が参加し、今年秋に神奈川で開催される全国学童保育研究集会への取り組みについて、抱負を熱く交流しました。　また、当日は地域で抱える課題についても広く状況を出し合いました。
全国研に向けた取り組みでは、相模原からは昨年の全国研 in 兵庫に行ってきたメンバーを中心にテンションを盛り上げている状況や、市連協として予算を組み各クラブに補助を出して参加を促し、参加者にレポートを書いてもらい共有していくという綾瀬からの報告。また、横浜や横須賀では参加費の補助予算を連絡協議会として準備している事など、全国研 in 神奈川の成功に向けた熱意が交流されました。
また、各地域が抱える課題としても、参加したすべての地域から発言がありました。共通することとして、新しい制度のもとでの指導員の処遇改善がなかなか進まない現状が話されました。海老名市では処遇改善事業、キャリアアップ処遇改善事業費とも予算が組まれていない一方で、綾瀬市では処遇改善事業の満額（259 万円/年）が各クラブに出ていることが報告されました。また、横浜では、キャリアアップの適用条件として資質向上研修相当の取り組みがレポート提出という形で実施されていることが紹介されました。平塚市では連協が要望してきた学童保育に特化した研修に行政研修として取り組むとの意向を市が示してきていることが報告されるなど、新春の１日、各地の状況を交流し合い有意義な会となりました。

私のおすすめ『日本の学童ほいく』

毎月の運営委員会で、「私のおすすめ『日本の学童ほいく』」を地域持ち回りでご紹介いただいています。12 月には、横浜市の池谷さんから、1 月は相模原市の渡邊さんからおすすめをいただきました。

池谷さんからのおすすめは…。10 月号から掲載されている講座「学童保育を求め、作ってきた人々　学童保育の歴史から学ぶ」（石原剛士氏）です。「学童保育の歴史が連載されている（久しぶりの）貴重な企画です。ぜひ読んでいただき、全国連協に意見を出してほしい」とおすすめをいただきました。連協に長くかかわり続けている池谷さんならではのコメントですね。
また、渡邊さんからは 2017 年 12 月号「どうしてどうして」より「なぜ地球が 46 億さいとわかるんですか?」について、「地球の歳を訊いていて面白かった。子どもに質問された時に答えることができると思うと楽しみです。」と楽しそうにお話しいただきました。子どもの素朴な疑問が楽しいこのコーナー、ファンが多いようです。
皆さんも、子どもの何故？に、その場で答えるのではなく、この「どうしてどうして」に投稿してみては?　掲載されると図書カード（500 円分）がいただけるそう。「こどもランドクイズ」や「子どものひろば」への投稿も図書カードがもらえるチャンスです。子どもと一緒に「ほいく誌」を楽しんでみませんか?

2018 年１月号～２月号に掲載されている神奈川からの投稿

＜2018 年１月号＞　特集「子どもの発達―学童保育の生活のなかで」
★　グラビア　綾瀬市　学童保育たんけんクラブ
☆　地域連絡協議会のページ　第 36 回横浜学童保育研究集会（1 月 28 日(日)・開港記念会館）

＜2018 年２月号＞　特集「第 52 回全国学童保育研究集会 in 兵庫
―出会い・集い・語り合い・ステキを見つけた学童保育」
★　「今年の力を来年の力に！神奈川でお待ちしています!!」
第 53 回全国研 in 神奈川実行委員会事務局長　上﨑輝夫
☆　地域連絡協議会のページ　第 41 回神奈川県学童保育研究集会（3 月 4 日(日)・開港記念会館）

「日本の学童ほいく」普及推進会議を開催しました！

2017年度に掲載された3人の方から、執筆にこめられた想いを報告していただきました。保護者からは、クラブとの出会い、指導員との出会い、子育てに対しての思いなどもあわせて報告いただきました。指導員からは、日頃クラブでの子どもたちとすごしている様子や保護者や子どもとのかかわりの中で配慮していることなども報告していただきました。

今年度は、たくさんの方が執筆してくださっています。日程が合わず他の方からの報告をお聞きすることが出来ませんでしたが、各市町村の学童仲間や神奈川の学童仲間の原稿をぜひ地域連協の会議や保護者会などで読み合わせしながら、執筆者の思い皆さんで感じていただけるといいかと思います。

また会議の中で、ほいく誌の活用方法などについても意見交換しました。

研修会の資料に、行政に、議員さんに、学校・地域に、入所説明会などでも活用するのもいい方法。と確認しあいました。

子ども・保護者・指導員
力をあわせて学童保育をつくりたい！

2017年7月号　高嵜光海さん（横浜市指導員）

上級生同士のつながりを強めるための活動に取り組んだところ、それまで見えなかった「才能」が見えてきました。また、保護者とのかかわりを強めるために、動画や写真を撮り、保護者会で発表し、普段見られないわが子の姿を見て、いろいろなところで会話が弾むように心掛けています。

３つの組織（市連協、指導員会、組合）で活動していますが、とても良い学びの場になっています。自分の学童で仕事ができるような子どもが出てくるくらい長く働き続けたい。そのためにも、楽しい学童にしたいし、もっと学童を高めていきたいです。

「子、育て」大人が見守るそのなかで

2017年9月号　伊藤千華さん（平塚市保護者）

自分の子どもだけを見ていればよいのではなく、周りの子たちも見ていかなければならないと考えているときに今の学童に出会えました。

この機会を通じて、「子育ては自分一人ではないこと」「子育ては周りと協力しながらするもの」を伝えたいと思いました。子育てを、サービスを受けるのではなく、子どもの心の変化なども分かって子育てをすることが大事だと再認識しました。指導員にもさらに積極的にかかわってもらいたいと思っています。そして、指導員と保護者がともに子どもに寄り添う学童にしていきたいと願っています。

息子たちと歩んだ日々をふり返って

2017年10月号　平野英美子さん（横浜市保護者）

３人の息子を学童に預けています。ほいく誌を読んで、いろいろな子育てをしている人たちを知ることができました。次男はトラブルが絶えず、仕事をやめようと考えたこともありましたが、学童保育の父母会や行事に積極的に参加するようになり、子どもの成長とともに親同士のつながりや学童の空気の中で徐々に安定していきました。

今はすぐにクレームにつながる時代ですね。

やんちゃな次男でしたが、親同士がつながることによって、トラブルではなく、自分の子として見るようになっていきました。（同クラブ指導員）

交流「『日本の学童ほいく』の活かし方!?」

- 合同入所説明会で見本誌を活用しています。新1年生保護者が「学童保育とはこんなところ」と知ることができます。
- 指導員会研修で読み合わせ、市連協会議では「おすすめ」の紹介。必ず開いて読んでもらうようにしています。
- 「ひらたいニュース」を発行。市連協会議や各クラブでも指導員が中心となって「読み合わせ（読み聞かせ）」をしています。
- 年間の特集テーマが発表されるので、研修の組み立ての時に、テーマをあわせることも。
- 1月号グラビアに採用されました。子どもたちが5人に減り存続の危機だった時に共に苦労した保護者達にも、安心してもらえました。

購読のお申込み・お問い合わせは…

神奈川県学童保育連絡協議会　☎045-662-9647 または ✉ kana_ken@pc4.so-net.ne.jp

「日本の学童ほいく」定価 340円/冊　年間購読 4,080円

2018 年 2 月号（2018 年 2 月 1 日発行）　　発行：神奈川県学童保育連絡協議会

第 41 回神奈川県学童保育研究集会ご案内

詳細はリーフレットをご覧ください。

◆日　時　2018 年3月4日(日) 10 時 00 分～16 時 30 分
◆会　場　横浜市開港記念会館　他(JR･市営地下鉄「関内駅」徒歩 10 分 みなとみらい線「日本大通り駅」徒歩 1 分)
◆参加費　2000 円（資料代込み）
◆全体会 10 時 00 分～12 時 15 分（横浜市開港記念会館講堂）
◆分科会 13 時 30 分～16 時 30 分（横浜市開港記念会館・神奈川県庁新庁舎）

● **記念講演**　　**「こうして育む 親子のきずな」**
講師…**中西新太郎先生**（横浜市立大学名誉教授・関東学院大学教授）

● 分科会　　＊教室は当日ご確認ください
＊どの分科会も、保護者・指導員共に学びあえる分科会です！

※※※　入門・基礎　※※※

6 どう伝える？ 性の話

■講師　渡曾睦子（東京医療保健大学准教授）

子どもから性のことを聞かれたらどう答えますか？ 低学年のあっけらかんとした質問から、思春期入り口の高学年のからだの変化も含めた質問まで、子どもからの性に関する質問にはなかなか答えにくいものです。でも、子どもと「生」についても話し合う良いチャンスです。子どもにどう伝えたらよいのか、子どもと考え合うポイントについて学んでいきましょう。

7 あそびのひきだし（室内あそび）

子供会や PTA 行事で子どもと遊ぶとき、何をすればいいのかな？ 指導員はどうやって日々子どもと遊んでいるんだろう？ 明日は子どもと何をして遊ぼうかな？ 保護者も指導員もいっしょに遊んで「あそびのひきだし」を増やしませんか？

8 保護者会運営の魅力

学童保育には保護者会・市町村営・企業型等多種多様な運営方式があります。その中で保護者が実際の運営に携わっている保護者会運営方式（地域運営委員会方式含む）にスポットを当てます。保護者会の存在意義、保護者会運営ならではの魅力について考えていきましょう。

※※※　指導員におすすめ　※※※

2018年2月号（2018年2月1日発行）　　発行：神奈川県学童保育連絡協議会

こんなにたくさん!!　2017年1月号～12月号神奈川からの執筆・投稿のご紹介

皆さんありがとうございました！

◆グラビア（学童紹介）　横浜市こどもの国学童クラブ（5月号）
◇特集
　★横須賀市岩戸・大矢部学童保育クラブ保護者　野村　亮さん（5月号）
　★横浜市みつばち学童クラブ保護者　平野英美子さん（10月号）
◆私は指導員　　横浜市指導員　高嵜光海さん（7月号）
◇子育て日記　　平塚市大原学童保育クラブ保護者　伊藤千華さん（9月号）
◆仕事・職場のいま　海老名市学童保育おひさまクラブ保護者 Wigley Damian さん
　　日本語訳　妻・岩井理恵さん（10月号）
◇出会い。集い保護者会　横浜市神大寺学童クラブ保護者　肥田はづきさん（11月号）
◆実践ノート
　★平塚市旭学童保育会指導員　内海洋子さん（7月号～8月号）
　★横須賀市岩戸・大矢部学童クラブ指導員　永松範子さん（11月号～12月号）
◇読者のひろば
　☺ 平 塚 市指導員　竹内徹さん（1月号）
　☺ 横須賀市指導員　藤本ちどりさん（5月号）
　☺ 横 浜 市保護者　見付祐子さん（7月号）
　☺ 横 浜 市指導員　渡辺喜久代さん（7月号）
　☺ 横須賀市指導員　笹川瑞穂さん（9月号）
　☺ 横 浜 市保護者　佐々木麻美子さん（9月号）

❀こどものひろば

★平 塚 市　佳奈美ちゃん（1月号）	★川 崎 市　菫ちゃん（2月号）
★逗 子 市　莉緒ちゃん（2月号）	★横 浜 市　梨花ちゃん（3月号）
★横須賀市　りりあちゃん（4月号）	★平 塚 市　ゆうかちゃん（5月号）
★横須賀市　ななちゃん（5月号）	★横須賀市　りかちゃん（6月号）
★横 浜 市　千隼さん（6月号）	★横 浜 市　ひなたちゃん（7月号）
★茅ヶ崎市　きほちゃん（7月号）	★横須賀市　いつきくん（8月号）
★横須賀市　龍一郎くん（8月号）	★横須賀市　隼之介くん（10月号）
★横須賀市　はるちゃん（11月号）	★横 浜 市　きはるちゃん（11月号）

★特別おススメ！　日本の学童ほいく 2018年2月号より★

特集　第52回全国学童保育研究集会 *in* 兵庫
記念講演「小学生のこころのヒ・ミ・ツ」

近藤直子先生（日本福祉大学名誉教授）

近藤先生の記念講演の中で、“「自分が覚えている一番古い記憶は何歳の時か」多くの人は5歳頃から 3 歳より前のことは覚えていないそうです。5歳頃から、小学生以上という人がほとんどだそうです。”と話され、子どもたちが覚えている一番古い記憶であろう、小学生の時期に学童保育でどういう生活を送ることが出来るのか？どんな大人たちとのかかわりを持つのか？を頭の中にめぐらせながら、近藤先生の記念講演をお聞きしました。

近藤先生の幼少期の頃の話を聞きながら、笑いあり、感動ありでメモも忘れ聞き入ってしまったことを読み返しながら思い出します。

子どもたちに“自分の人生を楽しめるように”“イキイキとした小学生時代”をプレゼントできるように学童保育での子どもたちの生活を工夫しながら、より良いものにしていけたらと思います。是非じっくりお読みください。

毎年、記念講演では感動と元気をもらってきます。“全国研 in かながわ”保護者も指導員もみんなで参加し楽しみましょう！！

第 53 回全国研 in 神奈川（2018 年秋）開催に向けて…

今日のつながりを明日の力に！そして今年は神奈川で❣

～　全国の学童保育の仲間をこの神奈川に笑顔で迎えましょう　～

年明け以降、全国各地が大雪にみまわれ、世界の各地でも異常気象のニュースが伝えられる昨今、いよいよ第 53 回全国学童保育研究集会 in 神奈川の開催される年に突入しました。思えば、昨年 8 月の暑い日に第一回の全国研実行委員会を立ち上げた時は、「まだまだ先の話で実感がわかないなぁ」というのが私自身の実感でした。しかし、あれから半年、全国研を実感する今日この頃です。

以前、神奈川で開催された全国研が第 40 回ですから、実に 13 年の月日が流れたことになります。当然、前回の神奈川での全国研を経験した学童保育関係者は少なく「ゼロからのスタート」に近い状況から始めることになりました。そこで、あらかじめ役割を決め、下見のポイントなどを全員で確認したうえで実行委員として、兵庫開催の全国研に臨みました。兵庫終了後も、各地域連協の皆さんと様々な意見を出し合いながら、今日まで一歩ずつ近づいてくる全国研への備えを固めてきました。しかし、ここからどのように加速していくか、がカギになります。今後、実行委員会の中で、各地域連協に担当していただく役割分担が決定していきますが、それぞれの地域連協が担当した役割を遂行できるよう創意工夫をして頂きたいと思いますし、私自身も頑張っていこうと思っています。

前回 40 回全国研も約 5,000 名の参加者を集めていますので、神奈川県連協が設定した「全体で 5,000 名の参加目標」は決してできない数ではありません。これから寒い冬を見送り、桜の季節を楽しみ、暑い夏を乗り切って、秋の全国研で北は北海道、南は沖縄からの学童保育の仲間をこの神奈川に笑顔で迎えましょう。

（「53 回全国研 in 神奈川」実行委員会事務局長　上﨑輝夫）

案　　内

お申込み・お問合せ…神奈川県学童保育連絡協議会（TEL：045-662-9647）

第 41 回神奈川県学童保育研究集会
～申込について～

個人の申込には、こちらのＱＲコードをご利用ください。（最後の送信ボタンの押し忘れにご注意ください）

また、団体でのお申し込みは、専用申込フォームがありますので、県連協事務所までお問合せください。

TEL　045-662-9647
Email　kana_ken@pc4.so-net.ne.jp

【↑かな研申込】

＊なお、受講票の発送は、2 月を越えてからとなりますことをご承知おきください。

天然の味【元祖笹川流れ】の昆布塩

日本海の清海水に北海道産昆布を入れ、特許製法で沸騰させない釜で仕上げた塩です。県連協役員から簡単でおすすめのレシピを聞きました。

茹でたての素麺にごま油と昆布塩。ただそれだけで美味しい！とのこと。細めのうどんでも美味しそうですね。受験勉強の夜食向けでしょうか?

販売価格…350 円/個（200ｇ入り）
３個 1,000 円

【　編　集　後　記　】

2 月号は「日本の学童ほいく」特集です。2017 年にも、神奈川県内からの投稿がたくさんありました。改めて、読者である保護者・指導員が自らつくっている雑誌だなと実感しました。それだけでなく、子どもも一緒に作り手になっているのですね。

また、第 41 回かな研に向けて準備が佳境に入ろうとしています。共に学びあえる機会となるよう、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。参加のお申込、お待ちしています！！

活動報告（12 月～1 月の主な活動報告）

12 月 20 日(水)　全国連協・厚労省等との懇談
12 月 26 日(日)　県次世代育成課との懇談会
1 月 8 日(月)　「日本の学童ほいく」普及推進会議
1 月 8 日(月)　2018 年新春会長会
1 月 21 日(日)　全国ブロック交流会議（東京都）
1 月 31 日(水)　第 50 回指導員交流会（川崎市）
他に、定例で運営委員会、役員会をしています。
また、かな研、全国研に向け実行委員会等開催。

♪ 地 域 連 協 だ よ り ♪

平塚市連協だより

平成 29 年度の平塚市学童保育連絡協議会は、十数年ぶりに会長が代わり新体制でスタートしました。
これまでの活動で産まれた２つの学童支援(緊急時指導員派遣、会計支援)をはじめ、平塚市への要望書提出、学童まつりの企画実行、地域イベント(浅間祭)での学童 PR などを継続的に取り組んでいます。
学童間交流を目的とした学童まつりでは新企画「相撲大会」を計画し、子どもたちもステージ発表の練習を、各学童の保護者や指導員会はそれぞれが模擬店準備を協力して進めました。
残念ながら台風の影響で開催中止となりましたが、開催していたら大いに盛り上がったことと思います。
要望書提出では、加盟学童の会長にも同席頂き、各学童の現状や現場の思いを具体的にお話することができました。
要望書の１項目目で挙げている 安全面が考慮された公的施設利用への関係各所への積極的な働きかけの要望については、 平塚市の考えとしても安全安心にプライオリティをおいていることもあり、民間借家学童クラブの小学校内空き教室への移設は徐々に進んでいます。
今後は、継続して要望していくことと併せて、小学校空き教室になったことで影響を受けることの改善要望もしていく必要がでてくるかもしれません。
昨年２月の放課後児童クラブ委託契約等事務説明会の場で、平塚市の大きな方針として安定した質の高い保育環境の維持、子育ての負担軽減を図るため①支援員等の処遇改善②小一の壁の改善が実施できる環境整備に向けた検討を進めると示されましたが、2018 年 1 月時点、具体的な方策展開はなく検討の進捗が芳しくないことが伺えます。
連協として貢献できることを考え、次年度以降実行していきたいと思います。
最後に。
今年度の活動を振り返り思うのは、どんなに時代が変わろうとも我々の原動力は「子どもたちにとってより良い学童保育づくり」「子どもの健やかな成長への思い」であると言うことです。
次年度も、子どもたちの豊かな育ちへの熱い思いを胸に、より良い学童保育づくりの為に私たちが出来ることを進めていきましょう。

次号の「地域連協だより」は三浦市連協が担当です。お楽しみに！

＜これからの主な予定＞

- ２月 25 日(日)　53 全国研 in 神奈川　第３回拡大実行委員会（横浜市開港記念会館）
- ３月４日日)　第 41 回神奈川県学童保育研究集会（横浜市開港記念会館）
- ６月 17 日(日)　第 43 回全国指導員学校・南関東会場（千葉県船橋市）
- ６月 24 日(日)　第 42 回神奈川県学童保育連絡協議会総会（会場未定）
- 10 月頃（土・日）　第 53 回全国学童保育研究集会（全国研）in 神奈川

＊その他、運営委員会は毎月第１木曜日、役員会を第３金曜日に開催。